

小学校教員養成における体育科教育法の指導について（その2）

神 和 人*

Teaching Method of Physical Education at University for Training Students
to be Elementary School Teachers

Kazuhito JIN*

Key words : 体育科教育 Teaching Method of Physical Education
小学校教諭 Elementary School Teacher
教員養成 Teacher Training

I. はじめに

1. 体育の方向性

教育基本法第1条の教育の目的を「教育とは人格の完成を目指し、平和的民主的な国家及び社会の形成者として必要に資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を目指す」と規定している。この目的はいかなる場合でも変わることのない願である¹⁾。

また、教育基本法第1章第2条第1号において「知・徳・体」の調和のとれた発達を学校教育法第30条第2項において、確かな学力の要素について規定がなされている。要約すると「生きる力」が重要視されている。このことから体育の方向性は生きる力から確かな学力・豊かな心・健やかな体の要素に繋がっている。とくに確かな学力では、基礎的・基本的な知識・技能の習得に分類される。他には思考力・判断力・表現力等に纏められる¹⁾。最後に学習意欲として掲げられる。正しくこれからの時代に対応できることを求められている。

以上をふまえ、これからの小学校教員をめざす学生に必要とされていることが二つある。1) グローバル的な視点から確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視すること。2) 「生きる力」を育成するために体育・運動を通して学びと社会

とのつながりに向けた体育の授業をどのように捉えていくかが要求されている¹⁾。

表1は旧学習指導要領と新学習指導要領²⁾を示したもので、内容の違いが理解できる。

表1

旧学習指導要領（平成元年告知） 適切な運動の経験と身近な生活における健康・安全についての理解を通して、運動に親しめるとともに健康の増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる ↓ 新学習指導要領（平成10年告知） 心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。
--

2. 体育の改善と基本方針

全国で児童の運動習慣が二極化している。運動能力・体力調査によって運動を実施する児童とそうでない児童である。それが全体の体力低下と生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成が十分に図られていないことが深刻な状況として長期的に継続している。

* 東北女子大学

さらに、健やかな体の育成及び心の育成については学校だけではなく、家庭、地域の役割も重要な課題となっている。体育はそのような環境のもと、新たに家庭、地域に新たに連携をつなげていく必要がある。また、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することをはかり、心と体をより一体としてとらえ、健全な成長を促すことが重要である。体育の基本方針は、体を動かすことが、身体能力を身に付けることともに、情緒面や知的な発達を促し、集団的活動や身体表現を通じてコミュニケーション能力を育成することや、道筋を立てて練習や作戦を考え、互いの話し合う活動を通じて論理的思考力をはぐくむこととなる。

3. 体育の役割

体育の時代をさかのぼると、身体の教育（身体を強健にすること）から運動の教育（運動やスポーツに内在する価値を重視）へと変革してきた。

とくに発達段階を踏まえての小・中・高等学校を通しての12年間は豊かなスポーツライフの基礎的部分に値するため指導内容の体系化と明確化が図られている。結果として、運動そのものの楽しさや種目による技術習得や自己の目標達成による楽しさを味わうことが体育の役割である。

この内容をしっかり把握し指導計画をすることが重要であると考えている。

4. 東北女子大学家政学部児童学科の教育目標³⁾

「小学校・幼稚園教諭、保育教諭、保育士など、子どもの成長に関わるエキスパートとして、専門的知識と技術だけでなく、子どもに関わる現代の様々な課題について深く考える能力、さらには社会において仲間と協力して活動するために必要となるコミュニケーション能力を備えると共に、教養を高め礼節と品性を身に付けた人材を育成する。」

教育課程の編成方針⁴⁾

- 1) 大学の学びの地盤となる教養科目を通じて、現代社会の様々な課題を理解し、これらの問題に解決のために必要な考察力や判断力を身に付ける。
- 2) 幅広い基礎（保育・教育に関する原理や心理学、及び表現の技能など）から、学年進行に伴って深く応用的な課題を身に付ける。
- 3) 各免許・資格に必要な実習や事前事後指導、及び学内外での行事等を通じて、社会において必要とされるコミュニケーション能力と協調性を身に付ける。
- 4) 「卒業研究」では、論理的思考力を養いながら、問題解決能力やプレゼンテーション能力を身に付ける。
- 5) 日常の学習指導（生活指導・履修指導）を通じて、自己管理能力を身に付ける。

表2 小学校教諭一種免許・幼稚園教諭一種免許・保育士の資格取得「体育」の授業科目と単位（東北女子大学「学校案内2017」p19-20より作成⁵⁾）

授業科目	単位数	年次別単位数					
		必修	選択	1年	2年	3年	4年
体 育	2			①②③			
身体表現（1）			2		①②③		
身体表現（2）			2		①②④		
体育科教育法			2			①	①

- ①小学校教諭当該免許に係わる必修科目
 ②幼稚園教諭当該免許に係わる必修科目
 ③保育士当該免許に係わる必修科目
 ④保育士当該免許に係わる選択科目

求める人物像

II. 本研究の目的

拙稿では第1回～2回の体育の基本概念についての内容とした。主に教員養成（体育）をするための基本的な知識や指導方法を教授する「体育科教育法」における授業内容を示し、小学校教員養成（体育）のための今後の課題を明らかにすることを目的とする⁶⁾。

具体的には、体育科教育法の授業のねらい、内容、展開方法を示し、今後の課題を明らかにするとしたが、本稿の目的は講義計画の第3～9回までの各計画の（目標・目的・意義・分類・種類）に応じた内容を理解する。具体的には学習指導要領解説保健体育編の理解を中心にするため、各領域について、学生が理解できる。

(2) 講義内容

拙稿に記載してあるが、講義計画は全体の内容が明確でなければ理解しにくい点があるので、本稿は第3回の体育の指導計画（作成の意義・種類・教育課程編成と年間指導計画の実際）より9回の時間計画の検討とし、講義計画の内容を説明する。

講義計画の表は拙稿と同じく全体の内容を把握するため表させていただく。

1) 第1回～2回⁶⁾

体育の基本概念、変遷、意義及び方法と学校教育の課題と役割などを取り上げた。

2) 第3～9回⁶⁾

各計画の（目標・目的・意義・分類・種類）に応じた内容を理解する。具体的には、学習指導要領解説保健体育編の理解を中心にするため、各領域について、学生が理解できる。

3) 第10～12回⁶⁾

評価について理解させる。学習指導案（単位時間計画等）に関する具体的な項目や作成時に留意する点について学ぶ。

4) 第13～15回⁶⁾

保健の基本概念・目標・目的を理解し、評価

について学ぶ。

(3) 講義の特徴⁶⁾

各計画案は体育の授業を実践するうえでシナリオとなる部分である。このため、授業がイメージできるように目標・内容・方法等を明確に記述することが必要となる。本科目では「生徒に対し、いかに良い授業ができるか」が前提のもと、詳細な内容を提示し、それに沿って学習指導案作成能力の育成を図る⁶⁾。

(4) 評価⁶⁾

評価は、通常授業の意欲・態度が30%、筆記試験70%で行う。

2. 体育科教育法の講義計画⁶⁾

小学校教員養成における体育科教育法の授業のねらいと授業計画について以下に示す（表3参照）。

授業のねらいは、「体育科教育の基本概念（基本方針・目標）から始まり、学校体育の在り方、学校スポーツ等の理解を含める目標、内容、指導計画、学習指導方法、評価方法等について授業展開をどのような観点から展開するべきかを学習し、体育科教員として必要な基礎的要素を学ぶ」こととしている。また、授業の到達目標として、「学校体育から生涯スポーツまで理解できる」を位置付けた⁶⁾。

3. 講義内容の詳細

講義内容については拙稿通り、第1回から2回までの内容であったが、本稿は第3回「体育の指導計画」～9回「時間計画」の検討までとした。

第3・4回（3、講義4、演習）

体育の指導計画

- 1 教育課程の編成
- 2 指導計画作成の意義と種類
- 3 年間指導計画の作成

表3 体育科教育法の講義計画⁶⁾

回数	講義計画と内容	形式
1	体育の学習に関する基本概念（変遷、基本方針、目標）	講義
2	体育の内容（体づくり運動、器械運動系、陸上運動系、水泳系、ボール運動系、表現運動系）	講義
3	体育の指導計画（作成の意義・種類、教育課程編成と年間指導計画作成の実際）	講義
4	年間指導計画の作成	演習
5	年間指導計画の検討・単元計画作成の実際	講義・演習
6	単元計画の作成（小学校体育ハンドブック参照）	演習
7	指導計画作成の実際	講義・演習
8	時間計画作成の実際	演習
9	時間計画の検討	講義・演習
10	体育の学習指導と評価の基本	講義
11	体育の学習指導と評価の実際（体づくり運動、器械運動系、陸上運動系、水泳系、ボール運動系、表現運動系）	講義
12	学習評価の実際	講義・演習
13	保健学習に関する基本概念（目標、内容）	講義
14	保健授業の実際	講義
15	保健授業の指導と評価	講義

1 教育課程の編成

教育課程とは

学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を児童の心身の発達に応じ、授業時間数との関連において総合的に組織した学校の教育計画である⁷⁾。

教育課程編成の留意点

- 法律に定められた学校教育の目的や目標を前提とするものであること
- 学習指導要領に示す各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動の目標やねらいを前提とするものであること
- 教育委員会の規則、方針等に従っていること
- 地域や学校の実態等に即したものであること
- 教育的価値が高く、継続的な実践が可能なものであること

- 評価が可能な具体性を有すること

2 指導計画作成の意義と種類

① 指導計画作成の意義

- 指導計画とは、教科ごとに各学校の教育計画を具体化したものである。
- 体育科・保健体育科の目標を達成するためには、地域や学校の実態、子供の現状等を踏まえ、意図的・計画的に授業を展開するための指導計画が必要になる。
- 指導計画は、授業の善し悪しを決定する大きな要素となるものであり、各学校においては、周到な指導計画を作成することが求められる。

② 指導計画作成の種類

- 年間（指導）計画
- 単元計画

- 時間計画

3 指導計画作成の基本的な手順

- ①基礎資料（児童の実態、施設、用具の規模と数、学級・教職員数、地域の条件等）を作成する
- ②学校における体育科の目標を定め、指導方針を明確にする
- ③指導内容、領域別時数を定める
 - 運動の取り上げ方の重点化
 - 運動の取り上げ方の弾力化
- ④単元の構成や規模を決める
- ⑤単元配列を決める
- ⑥年間指導計画作成する

指導計画作成上の留意点

- ①地域の学校の実態を考慮、個々の児童運動経験や技能に応じた指導、児童自らが運動の課題解決を目指せるように工夫
- ②一部の領域の指導に偏ることのないように授業時間数を配当
- ③「保健」の時間数は、3・4年次は2学年で8単位時間程度、5・6年次で16単位時間程度
- ④総則および道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、体育科の特質に応じて適切な指導をする
- ⑤身体能力を身に付けるとともに、情緒面や知的な発達を促し、単元の構成や規模を決める。

第5・6回（5、講義6、演習テキスト）

単元計画作成の実際

1 単元計画とは

- 学習者にとって意味のある一つのまとまりをもった学習内容の基本的単位であり、体育では一般に運動種目を単元として捉えている。
- 授業者が単元の学習指導をどのように進めようとするかを示したものであり、時間計画を作成していくうえでの根拠となるものである。
- 授業者が、年間に配列された一つ一つの単元

（学習内容）をどのように進めようとするかを示したものであり、毎時間の学習指導につながる指導計画としての役割を担うものである⁹⁾。

• 構成

- 1 単独か組み合わせか
- 2 単元の規模
- 3 大きさなど

• 配列

実施時期等

2 単元計画の作成

単元計画作成上の留意点

- 新学習指導要領では、指導と評価の一本化が求められている。
- それぞれの単元（題材）において、観点別学習状況の評価に係る最適な時期や方法を観点ごとに整理することが重要である。
- 児童の実態を踏まえた学習のねらい（単元の目標）が明かになれば、具体的な学習の進め方（学習過程）と学習内容が導き出され、児童の活動が予測できる。
- 「技能」「態度」「思考・判断」の身に付けさせたい内容を、バランスよく単元計画に組み込む。
- 児童の実態を踏まえた学習のねらい（単元の目標）が明かになれば、具体的な学習の進め方（学習過程）と学習内容が導き出され、児童の活動が予測できる。

作成上の留意点

1 単元（題材）における指導と評価の計画を示す。

1 単元（題材）における評価基準や評価方法（ワークシートなど）を示す。

第7回（講義・演習）

指導計画作成の実際

1 指導計画作成のポイント

- 一人の教師が担当するだけの指導を考えるのではなく、小学校6年間を見通して、学校全体で

指導計画を立てる。

- 地域や学校の実態を考慮する。(・気候・校庭の広さ・施設や用具・児童数など)
- 子どもの心身の発達の段階や特性

2 年間指導計画作成の留意点

- 従前の指導計画の課題の整理
- 系統系を踏まえた内容の明確化
- 運動系の取り上げ方の弾力化の活用
- 年間指導計画作成の配慮
- 従前の指導計画の課題の整理

例) ・各単元の割り当て時間数は適当であったか
 ・各単元の配列の時期は適切だったか

系統性を踏まえた内容の明確化

- それぞれの学年でどのような内容を指導し、何を身に付けるのかを明確にする。あわせて教材の選択と内容の位置づけを考える。
- 高学年であれば、中学校でどのような内容が示されているかを確認し、小学校の段階で、どこまで指導するのかを明らかにする。
- まず、時間設定ありきの計画にならないように気を付ける。
- 運動の取り上げ方の弾力化の活用
- 指導内容が身に付けやすいのであれば、弾力化をいかし、どちらかの学年でまとめて学習を深める計画も立てられる。
- 特に低・中学年は高学年に比べ授業時間数が多いため、一つの単元に多めの時間を配当し、まとめてじっくり学習する方法が取れる。
- 各学校や地域の実態に応じて、指導内容の定着をより一層図ることができるように指導計画を工夫する。

年間指導計画作成の配慮

- 同じ領域および内容の配当時期をできるだけ揃える。(運動場や固定施設、用具を有効的に活用できるようにする)

単元計画作成の実際

- 1 単元計画とは
- 2 単元計画の作成

1 単元計画

単元とは

- 学習者にとって意味のある一つのまとまりをもった学習内容の基本的単位であり、体育では一般に運動種目を単元として捉えている。

1 単元計画とは

- 授業者が、年間に配列された一つ一つの単元(学習内容)をどのように進めようとするかを示したものであり、毎時間の学習指導につながる指導計画としての役割を担うものである。

構成

- 単独か組み合わせか ・単元の規模 ・大きさ など

配列

- 実施時期等

2 単元計画作成上の留意点

- ① 単元計画の課題の整理
- ② 二年間を見通した単元計画の作成
 - 学習指導要領では二年間の最終段階までに指導すべき内容が示されている
 - そこで、二年ごとに身に付ける内容を考慮した計画を立てる
 - 小学校の教師は単一学年の指導を考えがちであるが、二年間のまとまりで考える。
 - 学年のムラや無駄の少ない効果的な指導を目指す。
- ③ 単元計画の課題の整理
 - 指導方法は適切だったか
 - それぞれの単元の学習時間が適切だったか
 - 学習の手順は良かったのか
 - 小学校の教師は単一学年の指導を考えがちであるが、二年間のまとまりで考える。
 - 学年のムラや無駄の少ない効果的な指導を目指す。
- ④ 新学習指導要領では、指導と評価の一本化が

求められている。

- ⑤ それぞれの単元（題材）について、観点別学習状況の評価に係る最適な時期や方法を観点ごとに整理することが重要である。
- ⑥ 児童の実態を踏まえた学習のねらい（単元の目標）が明かになれば、具体的な学習の進め方（学習過程）と学習内容が導き出され、児童の活動が予測できる。
- ⑦ 「技能」「態度」「思考・判断」の身に付けさせたい内容を、バランスよく単元計画に組み込む。
- ⑧ 1単元（題材）における指導と評価の計画を示す。
- ⑨ 1単元（題材）における評価基準や評価方法（ワークシートなど）を示す。

第8回（演習）

時間計画（指導案）作成の実際

- 1 時間計画（指導案）とは
- 2 時間計画（指導案）の作成

1 時間計画とは

- 単元計画に準じて1単位時間の単位で学習指導（授業）や評価がどのように展開されるかを示したものである。

時間計画（指導案）作成の実際

- 時間計画（指導案）とは
- 時間計画（指導案）の作成

運動の楽しさと指導内容の明確化

- 小学校体育では、生涯にわたって「豊かなスポーツライフ」を送ることができるように、その基礎的な資質や能力を育むことを目指している。
- そこで、「発達の段階に応じて運動することの楽しさを子どもが享受できる。」ことが大切。すなわち「楽しさ」の追求。

内容について

- 良い授業では「楽しい」状況をうまくふくらませることで指導内容の定着化が図られる。
- さらに、楽しさや喜びを味わうことができるようにするためには、「指導内容の明確化」とそれらが身につくような指導が必要。

授業づくりのポイント

「楽しさ」の理解のために

- 運動することで得られる楽しさは、「体を動かす」「うまくなる」「工夫する」「わかる」「考える」「協力する」など様々である。
- また「楽しさ」は子どもの成長とともに変容していく。子どもの欲求を満たすような授業の組み立により意欲的な学習の展開が可能となる。

成長の考慮

- 例えば低学年・中学年では、体を動かすことそのものに楽しさを感じる。
- 高学年では、いろいろな課題に取り組んだり、新しい技術を獲得したり、ゲームで勝ったりしたときに「楽しさ」を感じるようになる。
- そのためには、基本技能の習得、場の工夫、生徒同士認め合い・教え合いなどの学習展開により、成就感や、達成感を味わえるようにすることが重要。

時間計画作成上の留意点

書式

- 一般的には、「はじめ－なか－おわり」あるいは「導入－展開－整理」などの段階ごとに、学習内容や学習活動、教師の支援や評価基準、評価方法等が示される。

内容について

- 「本授業で身に付けさせたいことは何か」「それを身に付けさせるためにどのような指導を行うのか」「指導したことが見についたのか（評価）」等の事項を押さえる。

第9回（演習）

時間計画（指導案）の検討

第8回（時間計画（指導案）作成の実際に基づき内容の検討

1 時間計画について

時間計画とは、単元計画に準じて1単位時間の単位で学習指導（授業）や評価がどのように展開されるかを示したものである。

2 内容について

- 良い授業では「楽しい」状況をうまくふくらませることで指導内容の定着化が図られる。
- さらに、楽しさや喜びを味わうことができるようにするためには、「指導内容の明確化」とそれらが身につくような指導が必要。

3 作成上の留意点

- 1単元（題材）における指導と評価の計画を示す。
- 1単元（題材）における評価基準や評価方法（ワークシートなど）を示す。

まとめと課題

今回の第2報は体育科教育法の具体的に中心となる指導計画である。とくに目標・意義・種類を

理解し計画が立案されなければならない最も重要な根幹である。内容も教育課程について前提としてあり。細部にわたり緻密に計画されたものでなくてはならない。また、計画の演習が加味されるため、実際に組み立てた計画が演習で確認することができる。本稿は教員として必ず理解しておく必要があり、体育の授業を遂行する上で最も基本的な内容を学習することを目的としている。

今後の課題は、東北女子大学児童学科の学生が本講義で理論的に理解した内容を指導実践することにより実体験を積んでいく機会を設定することである。

第3報では、体育の学習指導と評価の基本・体育の学習指導と評価の実際・学習評価の実際について学習指導要領を中心に説明する。

引用文献

- 1) 杉山重利、高橋建夫、園山和夫：教師を目指す学生必携「保健体育科教育法」（2013）大修館p4
- 2) 川口千代、杉山重利、高橋建夫、辻野昭、三木四郎、他：「小学校体育科教師用指導書：共同印刷p8
- 3) 東北女子大（2017）：学校案内P16
- 4) 東北女子大（2019）：学校案内p22
- 5) 東北女子大（2017）：学校案内pp19-20
- 6) 神 和人：小学校教員養成における体育科教育法の指導について「東北女子大学紀要」第57号、2018年、pp43-54
- 7) 埼玉県教育委員会HPより抜粋